

学術関係者・シンクタンク研究員等を標的としたサイバー攻撃について

近年、日本国内の学術関係者、シンクタンク研究員、報道関係者等に対し、講演依頼や取材依頼等を装ったメールをやりとりする中で不正なプログラム（マルウェア）を実行させ、コンピュータ内のメールやファイルの内容の窃取を試みるサイバー攻撃が多数確認されています。

1 被害の特徴

(1) 手口

- ・実在する組織の社員、職員をかたり、イベントの講師、講演、取材等の依頼メールや資料、原稿等の紹介メールが送られてくる
- ・日程や内容の調整に関するやりとりのメールの中で、資料や依頼内容と称したURLリンクが本文に記載されたり、資料、原稿等という名目のファイルが添付されたりする
- ・当該URLをクリックしたり添付ファイルを開いたりすると、マルウェアに感染する

(2) 送信元メールアドレス

詐称対象の人物名や組織の略号を用いて、使い捨てのメールアドレスだけでなく、著名なフリーメール(yahoo.co.jp、gmail.com、outlook.com等)のドメインのメールアドレスから送信されてきます。

(3) 不審メールの件名の例

- ・【依頼】インタビュー取材をお願いします
 - ・研究会へのゲスト参加のお願い【●●●●●●●●】
 - ・【ご出演依頼】●●●●●●勉強会
- (※ ●●●●●●には実在する組織名等が入る)

2 怪しいと感じた際に実施すべき事項

- 別の手法での送信名義人への確認
- ウイルス対策ソフトのフルスキャン
- WEBメールサービス等のログインアラートの設定
- 二要素認証の設定
- 関係機関への相談